

学識者会議委員からの主な意見

◆第4回学識者会議＝平成20年11月27日

大石久和 委員（東京大学大学院情報学環教授）

- ・ 厳しい財政状況下、計画を進めるために、プライオリティを考えていく道筋や軸を示すことが必要。その上で、関西が首都圏に代替しうる唯一の地域という認識と、それに対する覚悟を持つべき。
- ・ 首都圏の代替ではなく関東に対抗できる第2軸として、人口流出を反省し人を集めるとともに、立地の代替など補完関係にある中京圏との関係を意識的に深めていくことが必要。
- ・ 「文化首都圏」について、何をするのか何を持つべきなのかを、もう少しはっきり記述すべき。地域の多様性と日本国の文化の特徴をここから発信するということを強調すべき。
- ・ 道路のミッシングリンクの解消という考え方は良いが、需要の多いところだけを整備するのではなく、国土全体をどう使うかを考えて道路網も鉄道網をレイアウトするべき。

小田 章 委員（和歌山大学学長）

- ・ 首都機能のバックアップ機能を関西が果たすという書きぶりは消極的。積極的な姿勢、立場を強調すべき。
- ・ 東京をコアとした関東地域を模して京阪神地域をまとめて第2首都機能をもたせるのか、それとも現状のままで関西の特色を出していくのか、はっきりすべき。
- ・ 京阪神が中心に書きすぎている嫌いがある。和歌山、滋賀、京都北部など周辺地域が見えない。高速道路整備などは、京阪神の中心部同様、周辺地域にも重要。
- ・ 防災について、日本全体で考えねばならないことで一部の地域で考えるものではない。日本全体で連携して取り組むべき。
- ・ 関西には日本最大の紀伊半島、日本一の琵琶湖等誇るべきものがあり、それらに伴う歴史・文化も豊か。これらの特異な存在を前面に出すべき。現在、和太で取り組んでいる半島の研究を活かし、関西が世界の半島振興のリーダーシップをとることも、関西の活性化の一つになる。

音田昌子 委員（大阪府立文化情報センター所長）

- ・ 全体の構成に関して、目指す姿の「首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核」を1番目に置か、又は1つ上に置いた方が良い。
- ・ 関西の本物は、伝統芸能や歴史的文化遺産であり、それらの振興を図るようなものが必要。また、平城遷都の記念事業には、関西が一体となって取り組む姿勢をもっと盛り込むべき。
- ・ 「ほんまもん」という表現は再考すべき。
- ・ これからは文系学問の知の拠点の役割も重要。例えば、ロボットテクノロジーにしても、従来の科学技術的な研究だけでなく、人間の成長発達と比較対照させる研究など、幅広い視野での

研究がされているし、漫画文化など新しい芸術文化の発信も進んでいる。

- ・都市的魅力と自然的魅力を日常的に享受できる圏域と二分するのではなく、都心に森をつくるなど、思い切った取り組みも必要。
- ・主要プロジェクト同士が複雑に絡みあっているところ多いので、整理すべき。

桂 明宏 委員（京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）

- ・「ほんまもん」という言葉を他圏域、外国に対して発信するなら名称を見直すべき。産業や品物にも文化や伝統を表現しているものがあり、立体的な表現が望ましい。
- ・近畿圏内での大きな地域格差がさらに広がっていることを認識した上で、現在不十分である近畿の北部や南部における交通網や情報インフラの整備が課題。
- ・地域産業や地域のコミュニティが疲弊している中、地域リーダーの育成が重要であるが、一番大きな役割を果たすのは市町村。市町村の権限、財源の内容が見えてこないのがプロジェクト自体がふわふわしている印象。
- ・プロジェクトの主体が明確でない。
- ・日本のトップを切って近畿圏から世界に発信できるようとりくみが必要。例えばほんまもん宣言についてであれば、日本版AOCを近畿圏から立ち上げるような発想が欲しい。
- ・農山漁村活性化プロジェクトについて、都市と農村の企業や経済主体が出会う場（プラットフォーム）が必要である。
- ・環境、資源、森林保全はそれぞれ関連しあっており、それぞれの主体をどのようにして巻き込んでいくかの具体的な仕掛けが必要。

加藤恵正 委員（兵庫県立大学経済学部教授）

- ・目指す姿2のタイトル「首都圏とは異なる日本のもうひとつの中心核」は「アジアの中心核」にすべき。また、目指す姿3のタイトル「アジアをリードする」という表現も不要ではないか。
- ・経済的な競争力という観点からすると、全体像として弱い印象。世界の中での経済競争力をどう提示できるかが、最も重要なポイント。
- ・ナレッジキャピタルなどとのインターフェイスにどういう形で政策的展望が描けるかの観点が必要。文化、歴史など産業と全く違うといわれたものとの接点について、経済的競争力という観点から記述すべき。
- ・大阪湾のパネルベイとナレッジキャピタル、大学などといかに結びつけるかを、もう少し踏み込んで記述すべき。広域的なイノベーションプラットフォームの構築も必要。
- ・関西の地域経済の魅力や強さは、地域のもつ固有の産業経済のあり方であり、例えば地域に根ざした中堅企業群の醸成、関西に拠点を置く企業を大事にする視点が重要。

河田恵昭 委員（京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授）

- ・防災が最後に書かれていることは、経済的な富も何も生まないというネガティブな発想。近畿圏には絶対失ってはならない財産があり、その評価をきちっとすべき。新しいことをして富を生

むということだけでなく、今もっている大事なものを失わないようなプロジェクトの組み方の配慮が必要。

- ・南海地震や上町断層地震が起きると、国宝、重要文化財は、確実に倒壊する。倒壊した際に建て替える財力が不足しており、地震や土砂災害に関する危機管理の認識が必要。
- ・河川整備について、暫定30年での議論ではなく、100年先を見据えた直近の30年についての議論が必要。そのアクションプランについて、誰が責任を持つかの道筋が必要。
- ・地球温暖化がそのまま進むと、高潮は今より1m上がり、防潮システムを全部作り直さなければならない。東京で議論が進められているように、関西でもそのような議論をすべき。
- ・首都圏では霞ヶ関や丸の内線の電力は2系統になっており、1系統の大阪に比べ地震に強い。

黒田勝彦 委員（神戸市立工業高等専門学校校長）

- ・10年後、近畿圏が日本と関係なく独立していると考えた時、世界やアジアの中でどう生きていくかという観点が必要。プロジェクトについて、アジアの中での位置づけの租借が不足。
- ・アジア太平洋地域の国際拠点を形成するという視点がなく、広域観光プロジェクトでは、世界からの観光客を集めるという視点で「するっと関西」のアジア版「するっとアジア」などソフトのプロジェクトが必要。
- ・近畿の3空港の位置づけについて、最終までに合意形成とめどをつけておくべき。
- ・炭素税の導入があるとなれば鉄道も重要になるが、交通の中で、鉄道網のことが記述されていない。夢洲で貨物専用鉄道があっても良いと思う。
- ・「ほんまもん」という言葉はにせものの対語である。売れるものだけを本物とするのか、売れなくても役に立つものを意味するのか、長い歴史を生き残ってきたものを意味するのかがよく分からない。
- ・京都では、茶道や華道など伝統的な生活様式を保っている人を支える生活道具が地場産業を作っているなど、小さな産業連関ができています。文化首都圏プロジェクトでは、伝統文化様式や伝統芸能をどう守るかについても記述すべき。
- ・日本海側は大陸との窓口としての役割があり、新しい経済圏をにらんだとき、日本海側のここを都市コアとして広げていくといった大戦略を作って実行するという視点が必要。

中瀬 勲 委員（兵庫県立大学教授）

- ・大流域圏と里山が関西の特徴である。
- ・森林を水田や二次林へと転換させ、さらに鎮守の森などで自然と文化を融合させることで生物多様性を保ってきたことが関西の特徴であり、里山や生物多様性の議論が重要。
- ・多自然居住地域について、ずっと続けて行くのか、各地域にテーマ性を発見していくのかについて考えることが必要。その際、プロジェクトの推進主体や、住民との関係、主体の育成など、人材と組織について考える必要がある。
- ・主要プロジェクトに関連する様々な地域のプロジェクトを促進することで地域を活性化させる仕組みづくりを考えることが必要。
- ・道路や湾岸整備などの際、自然環境に配慮するといった記述が必要。

狭間恵三子 委員（サントリー大阪秘書室課長）

- ・ 関西圏の強みは、個性豊かな都市があり自然の豊かさと共存していることで、その豊かさを最大限にPRすべき。そしてそれぞれの都市の個性を生かし、連携・補完しながら近畿圏全体の活力をアップするためには、都市圏それぞれをどのようにネットワークするかが重要であり、公共交通も含めた見直しが重要。生活環境、観光、経済など、連携して相乗効果をあげていくべきだと思う。
- ・ 過疎地には10年後には跡継ぎがないというエリアが多数ある、地域を担う若い世代を呼ぶためには、医療等の福祉分野だけでなく、教育や次世代育成を重視していくことも必要。
- ・ 「新しい公」を推進するための組織の問題が次の議論になる。住民、大学、NPOなどの参画、連携で、どのようにして仕組みをつくるかが重要。

宮川豊章 委員（京都大学大学院工学研究科教授）

- ・ 本計画ではいろんな部分が光っているが、大きなまとまった光が見えない気がする。
- ・ CO2削減と資源循環プロジェクトについて、もう少し違ったアプローチがあると思う。ものを大事に使うことなど、サステイナブルディベロップメントが大事で、今では少し物足りない。
- ・ 橋や道路などの社会基盤は、文化、文明、自然を支えるべきものであるが、現在社会基盤が傷んできている。そのような危機感についてももう少しプロジェクトの中で触れるべき。
- ・ プロジェクトについて、どのように動かすかが見えてこないのも、主体を明確に示すことが重要。